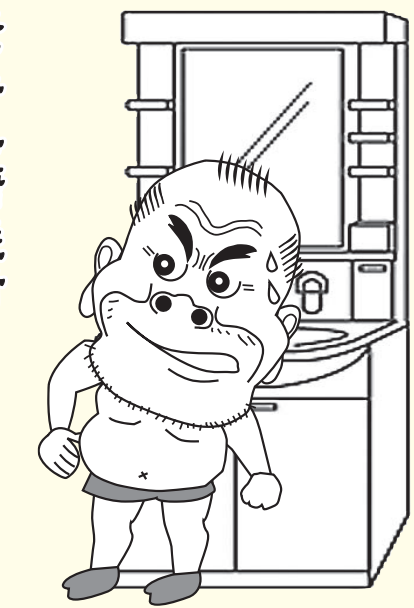


# ガンコ親父の

腰が小さくクキツと音を立てた。そのとたん歯磨きをしていた松次郎は「ワッ」と声を上げて、その場にしゃがみ込んでしまった。ヒゲの伸び具合を確かめようと、洗面鏡に顔をほんの少し近づけたのが悪かったのだ。生まれつき頑健な身体を持つ松次郎は、昨年の健康診断でもほぼ問題はなく、2〜3年前に足首を痛めた意外は身体の不具合を訴えたことなどほとんどなかった。息子夫婦からプレゼントされたシヨギングシューズを履いて、いつも走り回っている。血色はすこぶる良好で、はげた頭以外は10歳若く見られても不思議ではなかった。筋肉も骨もすじも、健康な状態を保っていたし、自信を持っていただけに、今回のぎっくり腰は青天の霹靂だった。ほんの少し腰を前に曲げただけ、角度にしてわずか10度くらいの前傾であった。なのに、腰の痛みとシヨックで立ち上がれないでいる。洗面台をつかみながら身体を引き上げようとするが、それもままならない。

「あら、オヤジ何やってんの？洗面台にぶら下がって。朝から上腕2等筋でも鍛える新しい運動かい？」学は悪気なく、窮地に陥っている松次郎に向かって笑いながら軽口を叩いた。「腰を痛めた現場を、一番見られたくない人間に見られたことで、松次郎は非常にハツが悪かった。学には教育的指導を含めて、これまで何度怒って、叱りつけたことだろう。ズボンのポケットに手を入れ、背中丸めて歩くな。もつとしゃキツと背筋を伸ばせ。そんなんじや、腰を痛めるぞ。性格も後ろ向きになるぞ。と同じことを学が結婚するまで言い続けた。そんな自分が姿勢の悪い息子より先に腰を痛めてしまったのだ。目の前の、今の松次郎のポーズは笑える範ちゆうを越えていた。学は冗談を言ったものの、ただならぬ緊張感を察して駆け寄った。「オヤジ、腰やったのか？」と松次郎の腕を取り、肩を入れて立ち上がらせた。そして「最近、姿勢が悪いんじやないの。年を取ったら、誰だって腰も弱くなるんだから、気をつけなさい」と優しく言った。

松次郎はその学の論すような言葉と「背筋を伸ばせ」的な内容に力チンときた。どちらが親か分らないもの言いだった。もういい、手を離せと喉まで言葉が出なかったが、腹に力が入らずに飲み込んでしまった。クシャクシャしながらも、手を回した息子の肩は大きく感じた。そういえば何年も学の肩など触れたことがなかった。しかし、こうしてみると、俺の息子もいつの間にかちゃんとした大人になったものだ、胸が熱くなってきた。とたんに涙腺が緩んだ。「オヤジ、そんな腰じゃ一升瓶持つの無理かもな。俺が、会社帰りに買っとくよ。もう、あまりしまっちゅ伝蔵も残ってないようだし。エッ、オヤジ泣いてんの。そんなに痛むんだったら、やっぱり病院に連れて行こうか？」



奄美黒糖焼酎

しまっちゅ伝蔵

常圧蒸留

昔ながらの手造り  
こだわり焼酎  
喜界島の豊かな大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのkokのある味と香りです。



2014年春季全国酒類コンクール・黒糖焼酎部門第1位受賞

25度  
好評発売中

喜界島酒造株式会社  
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12  
TEL 0997(65)0251

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、加盟しました。喜界島酒造は、この活動を応援しています。

the most beautiful villages in japan  
喜界町 鹿児島県

# 腰痛に乾杯!